

社 会 学

1 構 成 員

	平成 14 年 3 月 31 日現在
教授	1 人
助教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人（人）
助手（うち病院籍）	0 人（人）
医員	0 人
研修医	0 人
特別研究員	0 人
大学院学生（うち他講座から）	0 人（人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技官（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	0 人
合 計	1 人

2 教官の異動状況

佐藤 弘明（教授）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 13 年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編（編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編（編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3 編（3 編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編（編）
そのインパクトファクターの合計	0
(6) 国際学会発表数	0 編

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐藤弘明：森と病－バカ・ピグミーの民俗医学．市川光雄・佐藤弘明（編）講座生態人類学 2，森と人の共存世界．京都大学出版会，187-222，2001．
2. 佐藤弘明：アフリカ熱帯雨林住民の疾病とその要因：コンゴ・カメルーン国境地帯の事例．平成13年長崎大学熱帯医学研究所研究集会「熱帯性感染症対策に影響を及ぼす開発・環境・文化要因」長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野．pp.75-79，2001．
3. 佐藤弘明：公的医療システムへの民族医療資源の導入のための支援．平成13年長崎大学熱帯医学研究所共同研究会「開発途上国における疾病対策と貧困・環境・文化（III）」長崎大学熱帯医学研究所社会環境分野．pp.65-68，2002．

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(6) 国際学会発表

4 特許等の出願状況

	平成 13 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 13 年度
(1) 文部科学省科学研究費	0 件 (万円)
(2) 厚生科学研究費	0 件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	1 件 (250 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件 (万円)

(4) 財団助成金

佐藤弘明 (代表者) トヨタ財団 2001 年度研究助成「カメルーン南部熱帯雨林住民の民俗薬学知識の活用 - 熱帯雨林の持続的利用をめざして」250 万円 (新規)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	平成 13 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	1 件
(3) 学会座長回数	0 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	1 件

(2) 国際・国内シンポジウム発表

佐藤弘明: 熱帯雨林と人類進化 (The potential of the African tropical rain forest as a human habitat) 第 55 回日本人類学会・第 17 回日本霊長類学会連合大会・シンポジウム「人類進化とアフリカの植生」. 京都, July 2001.

(5) 役職についている学会名とその役割

第 7 回日本生態人類学会御殿場研究大会委員長

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 13 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 13 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	1 件
(3) 学内共同研究	0 件

(2) 国内共同研究

溝田 勉（長崎大学熱帯医学研究所）「熱帯疾患対策と貧困・環境・文化」

10 産学共同研究

	平成 13 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞（学会賞等）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. アフリカ熱帯雨林の人類の生息地としての可能性

ヒトは果たして農耕なしに熱帯雨林で生存可能かどうか、また、熱帯雨林を荒廃させることなくどれだけの人間がそこで生存可能か、という課題を検討するために、カメルーン国南部において狩猟採集民 Baka の野外調査にここ十数年従事している。これまで主として熱帯雨林の食物資源の分布と量に関する調査を進め、カメルーンの熱帯雨林には純粋な狩猟採集生活を支える食物資源の存在を示唆することができた。しかし、資源は十分あっても実際に可能かどうかは別問題である。そこで、2001 年度は実験的な狩猟採集生活に関する観察調査を開始した。それは、8 月に 10 日間、村から 10 数キロ離れた熱帯雨林において Baka の 6 家族に農作物を持ち込まない純粋な狩猟採集生活を実施してもらい、その間に採捕された食物の質・量、活動時間、移動距離、体重変動などの資料を収集するというものであった。現在、資料の整理中であり、2002 年度に成果を公表する予定である。

（佐藤弘明）

2. アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の民族医学

1987 年以来、コンゴ、カメルーンに住む狩猟採集民 Baka の民俗医学について野外調査を継続してきた。2001 年度は 1997 年度に刊行した病因論に続いて疾病論を公表した。そこでは Baka が森の民であるがゆえに彼らの病観念に熱帯雨林の動物が密接に関与していること、一方では、植物が薬として彼らの医療にきわめて重要な役割を果たしていることを明らかにした。また、今年度は長崎大学熱帯医学研究所の共同研究員として、熱帯地域における医療に医療人類学がいかに

貢献できるかという現実的視点から Baka の民俗医学をとらえなおし、その成果を公表した。また、同様な視点からの Baka の民俗薬学に関する研究計画に対してトヨタ財団から 2 年間の研究助成をいただくことになった。これは 2002 年度から調査を開始する予定である。

(佐藤弘明)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道